



2月23日(水・祝)は「富士山の日」

静岡県は2月23日を「富士山の日」としています。
富士山について知り、想いを寄せてみませんか。

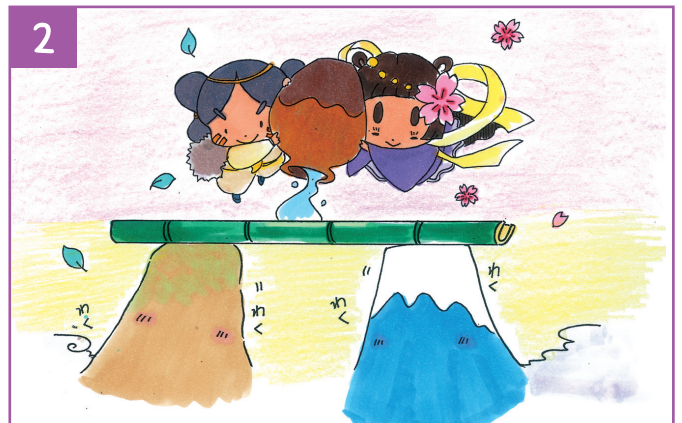
特集
富士山
の日

日本で一番高い山

富士山にはさまざまな伝説があります。ここで紹介するのは、富士山と八ヶ岳にまつわるものです。



昔から、背が高く美しい山の富士山と八ヶ岳には、神様がいました



ある時、富士山と八ヶ岳の2人の神様は、背くらべをしようと、頂上に樋をかけて真ん中から水を流しました



水は富士山に向かって流れたため、八ヶ岳の勝ちとなりました



怒った富士山の神様が、八ヶ岳の頂上を棒でたたくと、頂上は8つに割れ、富士山が一番高い山となりました

世界遺産 富士山

拝む山から守る山へ
～市内の構成資産から富士山の歴史をたどる～



世界遺産

世界の宝として、世界遺産条約により登録される世界遺産には、人が作り上げた「文化遺産」、地球の歴史や動植物の進化を伝える「自然遺産」、その両方の価値を持つ「複合遺産」があります。

富士山は、文化遺産として、「富士山一信仰の対象と芸術の源泉」という名称で、2013(平成25)年6月、カンボジアの首都プノンペンで開かれた第37回ユネスコ世界遺産委員会で登録されました。

構成資産

富士山は、山そのものだけでなく、周辺の神社や自然、遺跡なども構成資産として世界遺産に登録されています。

構成資産は、富士山が信仰の対象と芸術の源泉であるという価値を具体的に証明する文化財です。

静岡県と山梨県には、25か所の構成資産が点在し、そのうちの6か所が富士宮市内にあります。



▲富士山の世界遺産登録認定書
市役所(1階市民ホール)で複製を常時展示しています

| 旧石器時代 | 縄文時代 | 弥生時代 | 古墳時代 | 飛鳥時代 | 奈良時代 | 平安時代 |
|-------|--------|--------------------------|------|----------------|------|-------------------|
| | ●約1万年前 | 西暦 ◆110年 山宮浅間神社創建 拝む山 | | ◆598年 聖徳太子富士登山 | | ◆806年 富士山本宮浅間大社創建 |

富士山の成り立ち

富士山は、激しい噴火を繰り返しながら、現在の高く美しい山の姿になっていきました。



構成資産 2 山宮浅間神社

富士山が激しく噴火するのは、富士山に怒る神がいると人々は考え、遠くから拝みました(遥拝)。

神の怒りを鎮めるために、日本武尊が110年に山宮浅間神社を創ったと伝えられています。



富士山遥拝所

構成資産 3 富士山本宮浅間大社

富士山の神は、浅間大神と呼ばれ、坂上田村麻呂が806年に山宮から大宮に遷し、祀ったと伝えられています。

現在の富士山本宮浅間大社の本殿などの建物は、江戸時代に徳川家康によって奉納されました。



富士山と聖徳太子

飛鳥時代
西暦五九八年



聖徳太子は、甲斐の国(現在の山梨県)から献上された馬を大切に飼い、ある日試し乗りをしました



乗った瞬間、馬はすごい勢いで東の空へ飛び出し、富士山の頂上へ駆け上がりました



山頂に着くと、大きな岩穴があり、中には金色に輝く岩や門がありました



聖徳太子は、奥の院の大蛇に、人々のためにどのような政治をすればよいか教えてもらいました



五

構成遺産
1

富士山域(大宮・村山口登山道)

富士山での修業が盛んに行われた鎌倉時代から江戸時代にかけて、富士山本宮浅間大社(大宮)と富士山興法寺(村山)を拠点とした登山道が発展しました。室町時代に描かれたとされる「絹本著色富士曼荼羅図」には、拠点の施設を通り、富士山頂を目指す登山者の姿が描かれています。



富士山興法寺

富士山本宮浅間大社

▲富士山本宮浅間大社蔵

初めて富士山に登った外国人

1860年、イギリス人の外交官ラザフォード・オールコックが外国人で初めて富士登山をしました。その日記には、村山の宿坊に泊まり、心のこもったおもてなしを受けたことが記されています。



鎌倉時代

●1149年 富士山頂大日寺
創建
修行の山

室町時代

江戸時代

●1860年 オールコック
富士登山

登る山

守る山

現在

構成遺産
4

村山浅間神社

平安時代末期に富士山の噴火が収まってくると、富士山は仏で、山頂に仏が神の姿となって現れると考えられました。多くの修行僧が、富士山から仏や神の力を得ようと、富士山興法寺(村山浅間神社)を拠点に富士山で修業しました(修験)。



村山浅間神社

富士山興法寺大日堂

末代上人は、富士山頂に大日寺、村山に富士山興法寺を創り、村山修験の基礎を築きました。



構成遺産
5

人穴富士講遺跡

江戸時代になると、富士山に登り拝むこと(登拝)によって、家族の安全や幸せが約束されると考える「富士講」という組織によって、多くの庶民が富士山頂を目指しました。富士講は、講のリーダーの供養や登拝の記念に碑塔を建てました。



碑塔群

富士講の開祖とされる長谷川角行は、人穴や白糸の滝で厳しい修行を積んで悟りを開き、106歳の時に人穴で亡くなったとされています。



溶岩洞穴「人穴」

構成遺産
6

白糸ノ滝

富士講は、江戸を中心に大きく発展しました。富士講の人たちは、富士登山の後に、人穴や白糸の滝を訪れ、水行(山から出る神聖な水で心身を清める修行)などを行いました。

